

第三東京市立中学校 昭和18年入学

同期生写真集



2009.12

2010.06 改



文京高等学校が間借りしていた旧本郷元町小学校
(2009年3月撮影)

第三東京市立中学校の変遷

第三東京市立中学校 (昭和18年4月同期生入学)

↓ 昭和18年7月、東京府・東京市の統合により東京都となったため、市立が、都立豊島中学となった

東京都立豊島中学校 (戦後は、本郷元町小学校に間借り)

↓ 学制改革 (6・3・3制に改革) により高校となる
東京都立文京高等学校 (昭和23年から)

註: 昭和18年入学の同期生は、昭和23年に豊島中学 (旧制中学) 5年で卒業した者と、昭和23年に文京高校3年に編入し、昭和24年に文京高校を卒業した者がある。

同期生写真の目次

少年時代の同期生 P 2

昭和 18 年 (1943) 入学記念写真 E 組 (同期生の原点) ..P2

同期生の出会い

(前頁写真の部分拡大)P3

激動の中学生時代

中学時代必携の「生徒手帖」(2年生の時)の写し ..P4・P5・P6

昭和 19 年 (1944) 中学 2 年時の D 組の生徒の一部P7

昭和 22 年他 (1947 年) 遠足 (陣馬山) (強羅公園)P8~P9

昭和 23 年 (1948 年) 豊島中学卒業記念写真P10

昭和 23 年 遠足他 (大涌谷) (ペリー公園) (グループ写真) P11・P12・P13

昭和 24 年 (1949 年) 文京高校卒業記念写真.....P14

昭和 24 年 (1949 年卒業後の 6 月)P15

働き盛りの頃の同期生.....P16

昭和 40 年頃の大塚駅付近の料亭?P 16

昭和 50 年(1975 年)4 月 18 日 銀座 三笠会館P17

還暦を過ぎてからの同期生P18

1992 年 9 月 12 日 山海楼 D 組.....P18

1997 年 6 月 16 日 飯田橋・「藩」(同期会)P19

1998 年 2 月 20 日 プリントピア金沢八景 (同期生の一泊旅行) ..P20

同期生による“歩こう会”の発足を決めた

1999 年 10 月 17 日 大塚・神戸屋 (同期会)P21

2000 年 10 月 7 日 大塚・川金 (同期会)P 22

2001 年 11 月 10 日 大塚・川金 (同期会)P 23

2002 年 11 月 29 日 大塚・川金 (同期会)P 24

2003 年 11 月 14 日 池袋・かんぽプラザ東京 (同期会) ..P 25

2004 年 10 月 22 日 池袋・かんぽプラザ東京 (同期会) ..P 26

2005 年 11 月 26 日 池袋・かんぽプラザ東京 (同期会) ..P27

2006 年 11 月 25 日 池袋・かんぽプラザ東京 (同期会) ..P 28

2007 年 5 月 15・16 日 信州上山田温泉 (歩こう会)P 29

2007 年 7 月 7 日 池袋・かんぽプラザ東京 (同期会) ..P 30・P31

2008 年 12 月 2 日 新宿東京ヒルトン東京 (同期会)P 32

2009 年 10 月 15 日 武蔵境駅・グリーンパーク (歩こう会) .. P 33

2009 年 11 月 27 日 レストラン SAN・MI TAKAMATU (同期会) ..P 34

少年時代の同期生

同期生の出会い

大東亜戦争最中の昭和18年に12歳で入学した同期生250人は、A.B.C.D.Eの5組に分かれて学校生活が始まる。

服装は黄褐色の五つボタンの制服に戦闘帽で、登下校には、足に巻脚絆を着用した。頭は丸刈りであった。

授業には、軍事教練、銃剣術などがあって、軍人勅諭を暗誦するなど、軍国少年として教育された。また、軍国教育では鉄拳やビンタが容認されていた。



昭和18年入学記念

写真 E組 (同期生会の原

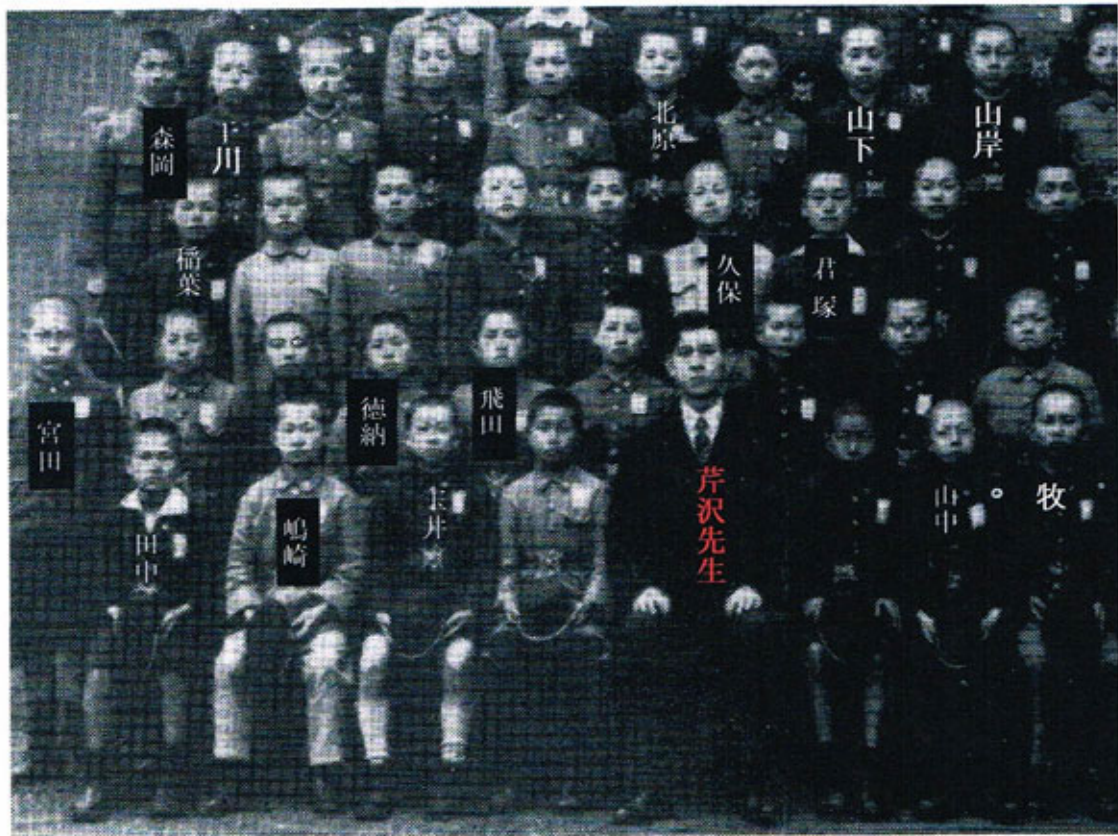
激動する中学生時代

中学2年生になると戦局は悪化し、末期になると戦禍が市民生活は基より学生生活に及ぶ。

- 昭和19年11月末から東京は米空軍の空襲を受けて、市街地の過半が焦土と化した。

母校の木造校舎も焼失した。自宅が罹災したり、戦禍を避けて疎開し、転校する等の苦境を生徒の多くが経験する。また、在校生は勤労働員で軍需工場等で働いた。

- 昭和20年8月の敗戦により学校に戻るが、戦禍による離散や転校等から戻った生徒は少なかった。また、学校及び周辺一帯は一望の焼け野原で、焼け跡に佇む以外に居場所はなく、廃校になるとの噂が流れていた。



注：入学当初のため、制服の支給が間にあわず、半ズボンで紺色の小学生服の姿が見られる。

(前頁写真の部分拡大)

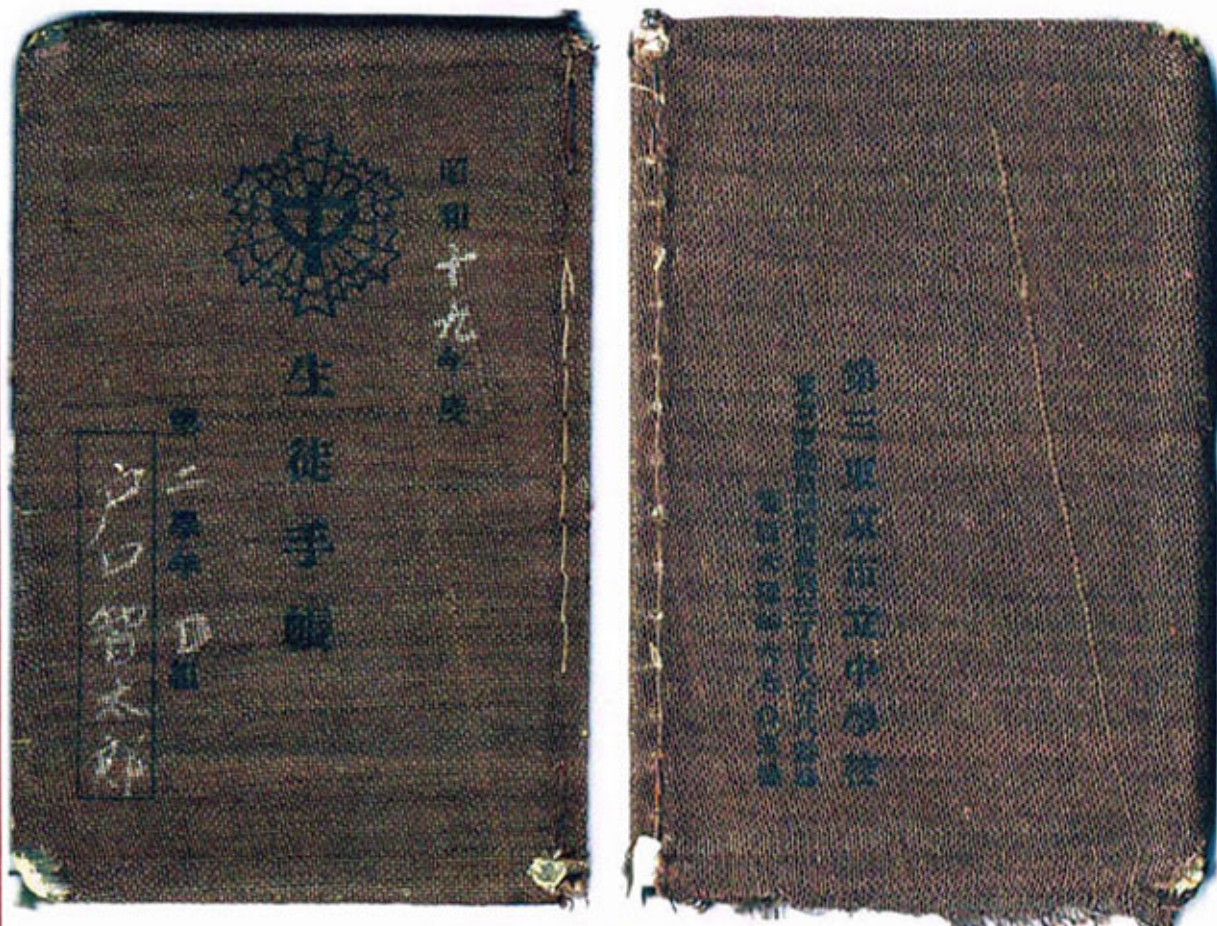
中学生時代必携
の「生徒手帖」
(2年生の時)
の写し

(表紙と裏表紙)

【註】 母校は、昭和18年に、東京市立から、東京都立になり校名が変わったが、この「生徒手帖」(19年度)の裏表紙には、「第三東京市立中学校」と書いてある。

また、見開き頁の「身分証明書」は、東京都立豊島中学校長 川島源司と、変更後の校名が書かれている。

これは、戦時の物資欠乏から、都制実施前の、旧年度手帖の残りを利用しているのではないか？



(手帖は 戸口氏提供)

校歌

高野 隆之伴作
日 本 歌 集 第 四 卷

- 一、豊島が岡の邊 神明の社に
齋きまつれる 皇大神の
誠をまげ 正しくあれど、
導き給ふ 吾等が學び舎
- 二、昇る旭の 明を打破り
正を顯し 邪を打破り
富士の高嶺の 氣高く淨く
世に生ひ立たんは 吾等が望
三、さやかにほがらに いそしみ勵み
誠私奉公 たゞ一筋に
伸びて果さん 負ひ持つ民と
おう第三東京市立中學校

紫色旗の下に

野日 英次郎作
紫 色 旗 歌 集 第 一 卷

- 一、深き谷間の岩清水
海を稱へる叫びあり
若き生徒の姿見て
知るや未來の眞男兒
- 二、菊の徽章に身を守り
高き理想に胸を入れ
誠を語る紫色旗に
新しき世を組立てん
- 三、扶植は犬に食はせよ
優柔不斷猿にやれ
われらは生さる死の正義
朝日の意氣や天なつく
- 四、あ、前進の命下る
往け奉公の誠私軍
生命さげげて神明の
加護に答へん答ふべし

生徒實踐要項抜萃

- 一、本校生徒は校調ノ指示トコロニ從ヒ宣誓ノ意途ヲ體シテ須臾モ離ル、コトアルベカラズ
- 一、始業前十分迄ニ登校スベシ 止ムヲ得ズ遲刻チナス場合ハ保護者ノ届ヲ持參スベシ
早退ノ場合モ亦同シ
- 一、缺席ノ場合ハ必ズソノ日ノ始業前ニ電話若シクハソノ他ノ方法ニヨリテ届出ヅマシ
歩行ハ正當歩 通學ノ際ハ一列 同歩調タルベシ
- 一、省線及市内電車内ニテハ起立スルヲ原則トス 但シ空席多キ場合ハ此ノ限ニアラズ
- 一、服装及携帶品ニハ必ズ學年・學級及姓名ヲ記シ置クベシ
- 一、擔任ノ許可無クシテハ貴重品ヲ持參スベカラズ
- 一、生徒間ニ於テハ金錢及諸用具ノ貸借チナスベカラズ 止ムヲ得ザル場合ハ擔任ニ申出ヅマシ
- 一、傳達・命令等ニ對シテハ必ズ復唱・復命チナスベシ
- 一、劇場及飲食店等ニ立寄ルベカラズ 但シ父母若シクハ祖父母ノ同伴アルトキハ此ノ限ニアラズ

「生徒手帖」の
2枚目の見開
き頁

凜とした坊主頭の可憐な中学生



颯爽とした
大谷某 (B組)
の勇姿!

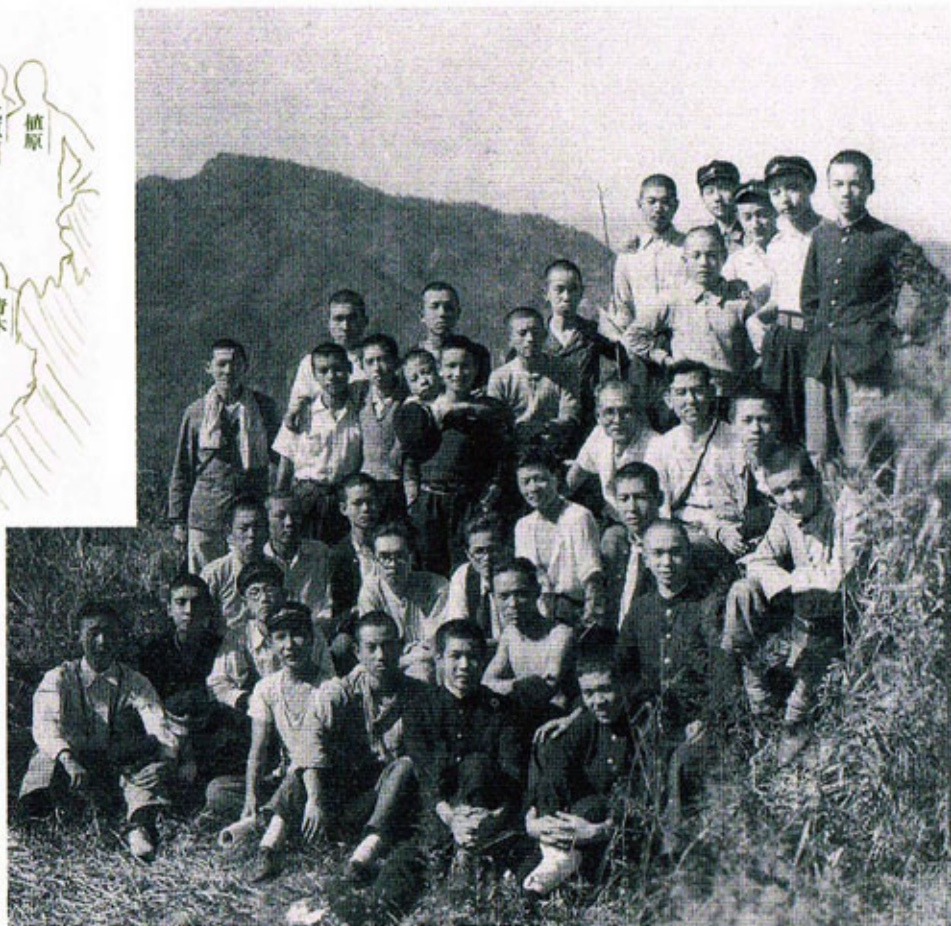


昭和 19 年 (1944) 中学 2 年時の D 組の生徒の一部 (この時期戦局は悪化し、7 月にサイパン島は玉砕した)



終戦から2年余り後の同期生
(16歳前後の頃)

昭和22年(1947年)10月
遠足(陣馬山)





昭和 22 年 (1947 年) 遠足 (強羅公園)



昭和23年豊島中学
卒業記念写真

(旧瑞中として最後の卒業)

伊藤 初谷 高沢 君塚 久保 滝本 古沢○秋山 長島 舟橋 芳井 森岡 遠藤 山田 岩井 久井 北原 干川 山本
 ○○○ ○ ○小川 高里 山岸 池谷 原田 秋谷 山下 ○○菊地○ 鈴木 坪田 牧野 早乙女
 ○山田○○○○高橋(清)○○○ ○ ○○○○鳥海 ○ ○ 青木 ○ ○
 ○○最上 ○○○ 脇田 ○西川 ○○○○ 江角 ○○ 高橋 堀 松本 新井 信田 伊藤長幸
 ○○○○ ○○○○ 渡辺○小林 ○深沢○稲葉○ ○牧 谷口 藤沢 原 小林○坂本 高橋○○○
 竹村 ○ ○ ○ ○ 田中 照屋 奥田 芹沢 橋 阿部 菅野 長谷川 ○ ○ 後藤 渋谷
 ○○武田○高橋(明) 市川 本庄 藤岡 田中 近藤 児島 望月 飛田 **赤字は先生**

日時不詳 遠足 箱根 (大涌谷)



日時不詳 久里浜 ペリー公園





昭和 23 年 10 月 31 日
新制高校演劇コンクール活動

昭和 24 年 文京高校正門前



桜蔭女子高校
を背景に撮影



昭和 24 年文京高校 卒業記念写真
(新制高学として最初の卒業となる)



卒業後の昭和24年6月の再会時の写真



働き盛りの頃の同期生

左上の写真と、右下の写真は別の写真であるが、先生方の外にも、両方に写っている人物もいる。

昭和40年頃の大塚駅付近の料亭？



昭和 50 年
4 月 18 日
三笠会館



岩井 小林(宇) 藤沢 久井 西山 柴崎 君塚 堀 牧(宗) 宮田 飛田 青木
岡崎 遠藤(敏) 最上 堀平 栃木 西川 前田 河野 近藤 池谷 山岸 脇田 高橋(明) 小林(勇) 務台 福山 伊藤(長) 原 高橋(昌)
小林(哲) 橘先生 長谷川先生 芹沢先生 奥田先生 阿部先生 後藤先生 船橋 菊地
深沢 初谷 本間 藤岡 静谷 鈴木(喜) 烏海 雨宮 江角



1992.9.12 山海楼 D組

還暦を過ぎてからの同期生



1997年6月16日
 飯田橋「藩」
 (同期会)

舟橋 戸口 牧野 館野 脇田 藤沢 井上 今泉 深沢 遠藤 大野
 谷 河野 渡辺 福田 (旧老沼)
 坪田 高橋 (清) 長島 菊地 池谷 高橋 (明)

同期生仲間による “歩こう会”の発足

1998年2月20日に、同期生（昭和18年4月入学）の1泊旅行が、プリントピア金沢八景であり、翌日に称名寺の裏山散策において、今後の健康増進と親睦を深めるため、原則として、毎月1回の“歩こう会”を発足させることを話し合い合意した。また、代表幹事は発案者の坪田氏に決めた。

1998年2月20日の 同期生の一泊旅行。



プリントピア金沢八景 1泊旅行の翌日、称名寺の散策における撮影
左より、戸口、池谷、嶋崎、坪田、高橋（清実）河野、大谷、高橋（明）、井上の諸氏。
左の写真は撮影者の舟橋氏。





1999年10月17日 大塚・神戸屋（同期会）



2000年10月7日 大塚・川金（同期会）



2001年11月10日 大塚・川金（同期会）



2002年11月29日 大塚・川金（同期会）



2003年11月14日 かんぽプラザ東京



2004年10月22日 かんぽプラザ東京



2005年11月26日 池袋・かんぽプラザ東京



2006年11月25日 池袋・かんぽプラザ東京



2007年5月15・16日 信州上山田温泉千曲館一泊 (“歩こう会”第100回記念)

〔註〕長野在住の嶋崎氏（写真中央）案内で、同氏の教え子の美人女将が歓待してくれた。



2007年7月7日 池袋・かんぽプラザ東京



前頁の 2007.07.07 同期会参加者の一部

高橋 (明) 嶋崎 伊藤 菊地 近藤 遠藤 原
瀧本 秋谷 信田



福田 大谷 瀧本 菊池 望月 前田 大野 井上 池谷 高橋(明) 近藤 信田
吉澤 牧 高橋(清) 静谷 北原 原 伊藤 嶋崎

2008年12月2日
新宿東京ヒルトン東京



2009年10月15日 武蔵境駅・グリーンパーク遊歩道 (歩こう会) 第125回)



2009年11月27日レストランSAN-MI TAKAMATU (同期会)

「同期生写真集」の作成ノート

毎年催される「同期会」の写真も10枚以上となり、「同期会写真帳」の作成を考えたが、同期会の原点である、中学・高校時代の写真、及び、在校生必携の、「生徒手帖」を、今も所持している方があり、拝借できたので、中学時代から今日までの「同期生写真集」として作成してみた。

なお、中学・高校時代の写真は、井上氏、高橋明氏、戸口氏、原氏、嶋崎氏から、また、「生徒手帖」は、戸口氏から提供していただいた。

Y.T